

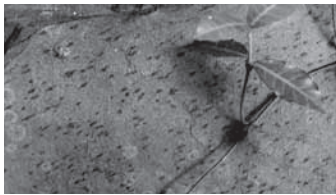
1億年前の深海から

やってきた竜

龍神山のすぐ南、染谷の丘の上にぼっこりつき出た大きな岩が波付岩^{なみつきいわ}です。暗灰色で薄い板を束ねたような割れ口の平らな面は、細かな鉱物の粒がぎらぎらとした光沢を放っています(写真①)。この岩石は古墳の石材として有名で、県南部はもとより硬い石のない千葉県の一部まで広く運ばれていました。

深海でできた波付岩

龍神山霊園の南方にある駐車場の岩を見ると、黒と白の部分を繰り返す縞^{しま}が見えます(写真②)。龍神山付近の地層は、陸近く



(写真①) よく見ると黒い細かい粒が集まったゴマのようなものが見えます。これは龍神山付近の岩石の特徴です。板に割れる性質も石室に適していて、石室の岩石が暗灰色に黒いゴマが散ってあれば、龍神山の近くから運ばれたとすぐ分かります。



(写真②) 白い部分には砂粒や小石も見えます。波の影響の及ばない深い海底では、普段は陸から砂などの粗い粒は運ばれませんが、多量の水と混ぜた状態では、深海まで堆積物が移動することができます。そうすると、理科の実験のように粒の粗いものから沈んでいき、最後に泥が落ち着くというわけです。

石流のように深海へ移動してできたと考えられます。市内には生物の化石が発見されていますが、同じ地層が広く連続している八溝山地では、恐竜がいたころの中生代ジュラ紀や白亜紀のプランクトン化石が見つかっています。つまり石岡の歴史も約1億年前までさかのぼることができるといえます。

再び深海から陸へ

地球を被うプレート^{プレート}の働き

で、深海でできた波付岩は再び陸へと移動します。日本海も日本列島の姿もなかった中生代の深海に堆積した地層は、海のプレートに運ばれて、大陸の縁にまるでへらでこすり取られるように張り付き、地層をつくりま

す。複雑にちぎれながらも押し上げられた地層は、同時代、東日本から九州まで横たわる大きな竜のように日本列島の屋台骨をつくっていきました。



矢野徳也
(自然公園指導員)
自然環境の調査や、学校などでの環境教育を積極的に活動している。

今回は大地の深部のマグマの世界を訪ねてみましょう。

タウンミーティング②

八郷地区の観光振興

し合うような組織を創設してはどうか。
4 地元に残ってもらうために、盆踊り・餅つきなどの伝統行事を子供たちに伝承する必要があり、また、子供たちに里山の価値を教える教育が必要である。
5 果樹に関してブランド化を進め、観光果樹園については、利用者側に立った情報発信が必要である。

山根まちづくりクラブから出された意見

- 1** 観光振興によって雇用の創出ができれば人口流出に歯止めがかかると思われるが、そのためには、住民に「リスクを背負う覚悟」が必要である。
- 2** 筑波山からの清流を観光資源にしてみてもどうか。
- 3** 観光振興について恒常的な意見を出



■ 申し込み・問い合わせ
秘書広聴課
☎ 23・1111 (内線212)

■ 開催日 5月28日
 ■ 団体 山根まちづくりクラブ
 ■ テーマ 八郷地区の観光振興について
 市長から石岡地区には「歴史・史跡」八郷地区には「里山・果樹」という市外に誇れるものがあり、現在「観光振興計画」の見直しを進めているとあいさつがありました。
 参加者から、現状も含めて活発な意見が出されました。